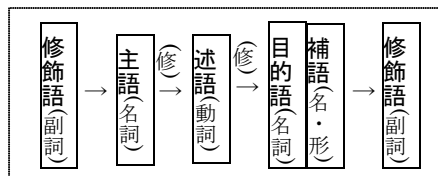


# 中1文法のまとめ



## ■中1の文法範囲

be 動詞	is, am, are には「～です」と「いる(ある)」の2つの意味がある
一般動詞	be 動詞以外の動詞は一般動詞
疑問文・否定文	助動詞を主語の前に出す
疑問詞	1年生の範囲で最重要。疑問詞は文の先頭に出る
命令文	命令文には他の文と違って主語がない
一般動詞にsがつく場合	3人称単数現在にはミスが出やすいものの1つ
現在進行形	「be+～ing」で「～している」という現在の一時的な動作を表す
can	「～できる」という意味の助動詞
過去(一般動詞)	規則変化と不規則変化を覚えよう
名詞の複数形	数えられる名詞には複数形がある
代名詞	表と使い方をしっかり覚えよう

## 1 be 動詞と一般動詞の変化

	人称	主語	意味	グループ	
単数	1人称	I	私	①	
	2人称	you	あなた		
	3人称	he she it	彼 彼女 それ	③	
複数	1人称	we	私たち		②
	2人称	you	あなたたち		
	3人称	they	彼(女)ら/それら		

- ※① → I だけ  
 ② → you か複数  
 ③ → I でも you でもない単数 (3人称単数)

### be 動詞の変化 (『～です』の文)

	be 動詞 (現在)	be 動詞 (過去)
①	am	was
②	are	were
③	is	was

### 一般動詞の変化 (『～する』の文)

	一般動詞 (現在)	一般動詞 (過去)
①	play	played
②	play	
③	plays	

※特に3人称単数現在のs/esに注意!

※過去形の規則変化 ⇒ 語尾にed

不規則変化 ⇒ 一覧表で確認

## 2 疑問文・否定文の作り方

動詞の種類	疑問文の作り方	否定文の作り方
①be 動詞の文 文中に am/are/is/was/were がある 【例】 He <u>is</u> a doctor.	am/are/is/was/were を主語の前に出す ⇒ <u>Is</u> he a doctor?	am/are/is/was/were に not をつける ⇒ He <u>is not</u> a doctor. (isn't)
②一般動詞の文 一般動詞の現在形・過去形がある 【例】 He <u>plays</u> soccer.	do/does/did を動詞から切り離して主語の前に出す ⇒ <u>Does</u> he play soccer?	do/does/did を動詞から切り離して not をつけ、主語と動詞の間に置く ⇒ He <u>does not</u> play soccer.
③助動詞の文 文中に助動詞(can/will など)がある 【例】 She <u>will</u> go shopping.	助動詞(can/will など)を主語の前に出す ⇒ <u>Will</u> she go shopping?	助動詞(can/will など)に not をつける ⇒ She <u>will not</u> go shopping. (won't)

※do / does ⇒ 現在形の文で使う (doesは主語が3人称単数の場合) did ⇒ 過去形の文で使う

## 疑問文に対する答え方

Yes, 主語 + 助動詞 .  
 No, 主語 + 助動詞 + n't [not].

主語 : I / you / he / she / it / we / you / they の中から選ぶ  
 助動詞 : am / are / is / was / were / do / does / did / can / will / may などから選ぶ

## 3 疑問詞 ※語順に注意

- ①疑問詞はつねに文の先頭に出る。【例】What do you like? (何が好きですか)  
 ②疑問詞のあとは疑問文の語順になる。(助動詞を主語の前に出す)  
 ※ただし、疑問詞が主語のときは助動詞を主語の前に出さない

### ▼ 名詞になる疑問詞(時に形容詞)

who	名	だれ
what	名	何 形 何の, どんな
which	名	どれ 形 どの, どちらの
whose	名	誰のもの 形 誰の

### ▼ 副詞になる疑問詞(時に形容詞)

where	副	どこに[へ,で]
when	副	いつ
why	副	なぜ
how	副	どのように/どのくらい/どう

※what / which / whose の形容詞の用法は常に名詞とセットで使う。What book～?

※how は「how+形容詞・副詞」の形でだけ「どのくらい～」という意味になる。How old～?

#### 4 命令文

主語がなく、動詞の原形で始まる文を命令文と呼ぶ。  
否定の命令文では Don't を動詞の前に置く。

【例】 Wash your hands. (手を洗いなさい。)  
Don't be afraid. (恐がらないで。)

#### ねらわれやすいポイント

- 呼びかけの名前は文頭か文末に置き、コンマで区切る。
- be 動詞の命令文は原形 be で始める。
- 丁寧な命令文は「Please～」または「～, please.」とする。
- 否定の命令文では be 動詞の場合でも don't を動詞の前につける。
- 「Let's～」には Yes, let's. / No, let's not. などと答える。

#### 5 現在進行形 (be+～ing)

	現在形(普段の行動・状態)	現在進行形(今の一時的な動作)
肯定文	He plays the guitar.	He is playing the guitar.
否定文	He doesn't play the guitar.	He isn't playing the guitar.
疑問文	Does he play the guitar? Yes, he does. / No, he doesn't.	Is he playing the guitar? Yes, he is. / No, he isn't.

- 現在進行形の文は「be+～ing」の形で「～している」という意味を表す。
- 現在進行形の疑問文・否定文は be 動詞の文と同じ作り方になる

#### 6 can(助動詞)

	現在形(普段の行動・状態)	can(～できる)
肯定文	He plays the guitar.	He can play the guitar.
否定文	He doesn't play the guitar.	He can't play the guitar.
疑問文	Does he play the guitar? Yes, he does. / No, he doesn't.	Can he play the guitar? Yes, he can. / No, he can't.

- can は「～できる」という意味で必ず動詞の原形とセットで使う。  
(主語が 3 人称単数の場合でも s はつかない)
- can の疑問文は can を主語の前に、否定文は can't を動詞の前に置く

#### 7 名詞の複数形の作り方

① s をつける (ふつうの語)	book (本) → books	girl (女の子) → girls
② es をつける (s, x, ch, sh で終わる語)	bus (バス) → buses	box (箱) → boxes
	class (授業) → classes	dish (皿) → dishes
	※o で終わる語の一部にも es をつけるものがある。 〈例〉 potato (じゃがいも) → potatoes	
③ y を i にかえて es ([子音字+y]で終わる語)	city (都市) → cities	dictionary (辞書) → dictionaries
	story (物語) → stories	country (国) → countries
	※[母音+y]で終わる語にはそのまま s だけをつける。〈例〉 boy (少年) → boys	
④ f, fe を v にかえて es (f, fe で終わる語)	leaf (葉) → leaves	life (生活) → lives
	wife (妻) → wives	

※このほか特殊な複数形と単複同形に注意。 特殊変化：child → children  
単複同形：a fish → two fish

#### 8 人称代名詞 ※主格—所有格—目的格の関係は関係代名詞と共通

	主格	所有格	目的格	所有代名詞	再帰代名詞	
意味・用法	主語	～の	相手・対象	～のもの	～自身	
単数	私	I	my	me	mine	myself
	あなた	you	your	you	yours	yourself
	彼	he	his	him	his	himself
	彼女	she	her	her	hers	herself
	それ	it	its	it	-----	itself
複数	私たち	we	our	us	ours	ourselves
	あなたたち	you	your	you	yours	yourselves
	彼(女)ら、それら	they	their	them	theirs	themselves

#### ※その他によく使う代名詞

this これ[この] ⇔ these これら(の) that あれ[あの] ⇔ those あれら(の)